

「杭基礎の耐震 2 次設計に関する勉強会」を夢想する

(一社) 基礎構造研究会代表理事 杉村義広

7 月 13 日 (土) に松江市で建築基礎設計の実技講習会があった。訪問することがあまり多くない日本海側での講習会であったので、いつも以上に頑張ろうとの気持ちが湧き出していた。また、欠席者が 1 名出て 12 名の参加者であったが、この人数はある意味で理想的であった。地盤・基礎への関心の高い構造設計者が一人でも多くなるように支援したいとの観点から講習会の最後には時間を取ってディスカッションを行い、交流を深めることに努めるように配慮して来たが、今回はとくにその効果を発揮できるとも考えていたからである。しかし、実際にはいつものことで案の定今回も時間を押しすぎてしまい、十分な交流が出来ない状態で終わることになってしまったのは残念であった。

筆者が講習会へ参加するようになった最初の頃は、一番後ろの席から参加者がどのような状況で聴いているかを密かに観察していたので、講義の際は熱心に聴講している姿を、演習になると会場を巡回している講師を捕まえて楽しそうに質問をしている光景を、それぞれ見ることになって、一日を通して長時間ではあるが飽きることなく過ごすことが出来ていたのである。しかし、地域的には全国を一周して 10 回を超えるほどに講習会を重ねて来ると、次第に慣れっこになってしまい、とくに今回は黙って座っているのが苦痛でストレスが溜まるようになっていたことを告白しなければならぬ。心の中では“筆者自身がかもっと発言する機会があつて活躍する会であつたならもっと楽しいのだが…。その形は目の前にしているこの講習会とは確かに違うな”との夢にふけていたのである。その内容についてここに書き留めておきたいと思う。

a) 会のタイトルは講習会とは性質を異にしているため、例えば当日にも話題となった 2 次設計を例題にして「杭基礎の耐震 2 次設計に関する勉強会」とする。

b) 募集人数は今回の 12 名程度が最適であるが、興行として考えれば講師 [筆者が担当] の旅費と会場借り上げ費を確保する意味では、その 2 倍程度の人数の会費を頂く必要があるかも知れないので、仮に 25 名を最大限度として想定しておく。

c) 参加資格を設定する。すなわち「建築基礎設計の実技講習会参加経験者」、「構造設計者として 7 年以上の経験を有する者」のいずれかを満たすことを必要とする。

d) 参加条件として、会のタイトルに関しての内容について質問があれば参加申し込みの際に 1 つだけ最大 300 字程度以内でメール添付を必須とすること [質問を原則とするが、要望や意見の類いが含まれることも可。これが上記 c の参加資格を決めたことに繋がっている]。

e) 会の運営は、講師が参加者からの質問を整理し、当日の議論の参考となる資料を Q & A の形の PowerPoint として作成する [会を成功させるためには、前もって参加者に配布しておくことが望ましいので、この作業の時間確保のために参加申し込みの期限は会の開催以前 3 週間ほど開けておきたい]。

当日は、午前 9:30～12:00、午後 13:00～15:30 の 2 時間半、トータルで 5 時間をすべてディスカッションに当て、最後に一人一人に 2 分ほどの感想を述べて貰い 17:00 には終了する。

以上であるが、参加者ごとに一つの質問があることが前提であるので最低限 25 のテーマがあることになる。平均して 1 テーマあたり 12 分ずつの割り当てとなるので、参加者はただ聴講するだけではなく、自分の質問の内容に関する説明や問題点の指摘なども含めてかなりの時間にわたって発言することが要求されているのである。その質問に対して講師が答えるという Q & A の形になることを基本としているが、すべての質問に対して講師が 100% の回答ができるかは保証の限りではない。むしろ、どの質問に対しても満足な回答が出来ないのではないかと、との心配の方が大きい。「2次設計はマニュアル化ができるものではない」のが実状であるからである。講師が出来るのは「質問者と一緒に考え、議論をする」ことぐらいであるという方が正しいのかも知れない。筆者は“2次設計は、それについてよく勉強した構造設計者が自分の know how とすればよい”と言いつけて来たが、公のマニュアルなどは作ることが不可能である一方で、それでも 2次設計はやって貰いたいとの市民からの要望が強いのが現状である。したがって、構造設計者個人個人が自分の [あるいはグループでもよいが自分たちの] 方法 [いわば独自のマニュアルともいうべきもの] を作り上げておくことが必要となっているとも言えるだろう。その観点から、参加者は講師とのディスカッションのみならず、場合によっては参加者同士のディスカッションも行うことを通じて、言い換えれば、皆で互いに考え方を作り上げていくといった会となることが当然考えられるが、そうした会を是非やってみたいと思っているのである。

ディスカッションがうまく続かずに時間を持て余してしまうリスクも考えられるので、そのような場合の対策として筆者が普段考えている問題についての補足説明のパワーポイント資料もいくつか用意しておく積もりである。このような会を実現したいものだと夢想していたのである。ただ、それを成功させるには、構造設計者からの要望があるかが決め手になるので、全国のどこかで関心のある方がいれば当研究会の事務局へこのような会の開催について希望のあることを連絡していただきたく思います。